

### ●工事を振り返って

2023年10月末、遂に建屋の竣工を迎え、工事かわら版も最終号となります。最終号では長く続けてきた建屋工事を振り返ってみたいと思います。

2021年3月頃、土工事の真ただ中でした。当初はまだ旧駐車場が稼働しており、工事範囲も現在の敷地の半分ほどでした。日々ダンプカーが現場を往来し、躯体工事開始に向けた準備が進んでいました。

2021年10月頃、現在から2年前。土工事が概ね完了し、躯体工事が本格的に始まりました。タワークレーンの家康号・直虎号、クローラクレーンの佐鳴号が揃い踏みし、建物が立体的になり始めました。この躯体工事ではRC造、S造に加え、かわら版2022年2月号で紹介した“Hy-Ecos工法”という清水建設の独自工法で、建物の構造体が作られていきました。

2022年10月頃、躯体工事が最盛期となり、高層階だけでなく低層階北部でも工事が進んでいました。その中で仕上工事も本格的に始まった為、工種が多岐に渡り、現場が最も複雑であった時期でした。

2023年2月末、新病院と既存病院を繋ぐ上空連絡通路の工事が始まり、前面道路に交通規制をかけながら、夜間を含めた作業となりました。浜松医療センターの関係者の皆様、近隣住民の皆様の、ご理解とご協力に感謝申し上げます。

そして、2023年10月現在、仕上工事が完了しました。仕上工事が完了するまで1年以上の月日を要し、建物を完成させることの大変さを改めて感じ、病院という社会的な意義の大きな施設を完成させることができ、ものづくりの醍醐味・やりがいも非常に強く感じた工事であったと思います。

末筆になりますが、浜松医療センター新病院整備事業に携わることができた事を、JV職員一同感謝すると共に、新病院が社会の支えとなる事を願い、ここに建屋工事完了をご報告致します。

### 定点写真

